

いいたてまでいな復興計画（第5版）第1回推進委員会・村民部会合同会議次第

日時：平成26年7月25日（金）

午後2 時～午後4 時

会場：ホテル福島グリーンパレス

1 開 会

2 委嘱状交付

3 委員長・副委員長選出

4 諮 問

5 あいさつ

6 委員及びオブザーバー紹介

7 協 議

（1）いいたてまでいな復興計画（第5版）策定の進め方について

（2）今後のスケジュールについて

8 その他

9 閉 会

第1回 いいたてまでいな復興計画推進委員会村民部会次第

日時：平成26年7月25日(金)

午後4 時15分～午後5時

会場：ホテル福島グリーンパレス

1 開 会

2 あいさつ

3 副代表選出

4 今後のスケジュールについて

5 その他

6 閉 会

いいたて までの復興計画推進委員会

委員長 赤坂憲雄様

諮問書

いいたてまでの復興計画推進委員会設置要綱第1条に基づき、下記に掲げる事項について諮問します。

平成26年 7月25日

飯舘村長 菅野典雄

1 諮問事項

- ① 帰村環境の整備について
- ② 一人ひとりの支援の着実な実施と拡大について
- ③ 村内拠点エリアの早期整備について

2 答申の期限

平成27年2月中旬を目途に答申を提出願います。

いいたてまでいな復興計画推進委員会設置要綱

1 目的

飯舘村長が諮問するいいたてまでいな復興計画を推進する施策を検討するため、いいたてまでいな復興計画推進委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

2 構成

（1）委員会

ア 委員会の構成員は、別表に掲げる者とする。

イ 委員会に委員長及び副委員長を置き、その選出は委員の互選によって行う。

ウ 委員会は、必要に応じ、構成員以外の者に出席を求めることができる。

（2）検討部会

ア 委員会は、必要に応じ、検討部会を設置することができる。

イ 検討部会の構成員は、協議事項に応じて委員会の委員長及び村長が指名する。

3 庶務

会議の庶務は、飯舘村総務課において処理する。

4 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会の委員長が別に定める。

平成26年度いいたて までのな復興計画推進委員会 名簿

No.	区 分	氏 名	選出区分	肩書き・所属等
1	委員長	赤 坂 憲 雄		東日本大震災復興構想会議委員、福島県復興ビジョン検討委員会委員、福島県立博物館長、学習院大学教授
2	副委員長	濱 田 光 弘	村 民	商工会青年部顧問
3	委 員	藤 野 純 一	アドバイザー	国立環境研究所社会環境システム研究センター持続可能社会システム研究室主任研究員、環境未来都市評価・調査検討会委員
4	委 員	佐藤 弥右衛門	アドバイザー	合資会社大和川酒造 代表社員 までの大使
5	委 員	片 岡 杏 子	アドバイザー	フリーランス（教育分野の企画・編集制作・執筆）、東北芸術工科大学非常勤講師、京都造形芸術大学非常勤講師
6	委 員	川 延 安 直	アドバイザー	福島県立博物館 学芸員
7	委 員	境 野 健 児	有識者	教育部会代表
8	委 員		村 民	教育部会副代表
9	委 員	岩 崎 由美子	有識者	暮らし部会代表
10	委 員		村 民	暮らし部会副代表
11	委 員	鈴 木 典 夫	有識者	医療・福祉・高齢者部会代表
12	委 員		村 民	医療・福祉・高齢者部会副代表
13	委 員	守 友 裕 一	有識者	農地保全・営農再開部会代表
14	委 員		村 民	農地保全・営農再開部会副代表
15	委 員	松 下 義 喜	村議会議員	総務文教常任委員長
16	委 員	北 原 経	村議会議員	産業厚生常任委員長
17	委 員	佐 川 旭	有識者	村づくりアドバイザー
18	委 員	上 西 正 路		いいたてまでのな復興株式会社取締役
19	委 員	上遠野 健 一		いいたてまでのな復興株式会社取締役
20	委 員	小 西 千 晶		いいたてまでのな復興株式会社業務援助
21	委 員	佐 藤 正 幸	村職員	教育課学校教育係長
22	委 員	渡 部 朋 子	村職員	住民課住民係長
23	委 員	高 橋 政 彦	村職員	健康福祉課福祉係長
24	委 員	杉 岡 誠	村職員	復興対策課農政係長

25	オブザーバー	楮 本 元		復興庁福島復興局参事官
26	オブザーバー	竹 本 林 官		経済産業省派遣職員
27	オブザーバー	万 福 雄 三		農林水産省
28	オブザーバー	野 本 雅 彦		福島県職員（飯舘村応援派遣）
29	事務局	白 戸 智		(株)三菱総合研究所
30	事務局	北 井 渉		(株)三菱総合研究所
31	事務局	荒 木 啓 史		(株)三菱総合研究所 教育部会事務局
32	事務局	山 田 英 二		(株)三菱総合研究所 暮らし部会事務局
33	事務局	橋 本 政 彦		(株)三菱総合研究所 医療・福祉・高齢者部会事務局
34	事務局	酒 井 淳 子		(株)三菱総合研究所 農地保全・営農再開部会
35	事務局	中井田 榮	村職員	総務課長
36	事務局	三 瓶 真	村職員	総務課企画係長
37	事務局	今 野 智 和	村職員	総務課企画係
38	事務局	齋 藤 博 史	村職員	総務課企画係

（順不同、敬称略）

村民部会(教育) 名簿

No.	区 分	氏 名	選出区分	所属等
1	代 表	境 野 健 児	有識者	福島大学名誉教授
2	委 員	木 幡 邦 彦	村 民	
3	委 員	佐 藤 匡	村 民	
4	委 員	佐 藤 祐 子	村 民	
5	委 員	庄 司 智 美	村 民	
6	委 員	星 貴 弘	村 民	
7	委 員	和 田 節 子	教職員	草野・飯樋・臼石小学校長
8	委 員	佐 藤 正 幸	村職員	教育課学校教育係長
9	委 員	志 賀 春 美	村職員	教育課生涯学習係長
10	事務局	荒 木 啓 史		(株)三菱総合研究所
11	事務局	中井田 榮	村職員	総務課長
12	事務局	三 瓶 真	村職員	総務課企画係長

(委員:50音順、敬称略)

村民部会(暮らし) 名簿

No.	区 分	氏 名	選出区分	所属等
1	代 表	岩 崎 由美子	有識者	福島大学行政政策学類 地域と行政専攻教授
2	委 員	菅 野 美 香	村 民	
3	委 員	北 原 繁	村 民	
4	委 員	小 泉 裕 隆	村 民	
5	委 員	佐 藤 かおり	村 民	
6	委 員	西 尾 ツ ネ	村 民	
7	委 員	濱 田 光 弘	村 民	
8	委 員	渡 部 朋 子	村職員	住民課住民係長
9	委 員	庄 司 奈津子	村職員	生活支援対策課生活支援係長
10	事務局	山 田 英 二		(株)三菱総合研究所
11	事務局	中井田 榮	村職員	総務課長
12	事務局	三 瓶 真	村職員	総務課企画係長

(委員:50音順、敬称略)

村民部会(医療・福祉・高齢者) 名簿

No.	区 分	氏 名	選出区分	所属等
1	代 表	鈴 木 典 夫	有識者	福島大学行政政策学類 地域と行政専攻教授
2	委 員	大 渡 正 子	村 民	
3	委 員	菅 野 スイノ	村 民	
4	委 員	齋 藤 絵 美	村 民	
5	委 員	佐 藤 正 幸	村 民	
6	委 員	高 橋 恵美子	村 民	
7	委 員	星 章 作	村 民	
8	委 員	松 田 久美子	村職員	健康福祉課健康係長
9	委 員	高 橋 政 彦	村職員	健康福祉課福祉係長
10	事務局	橋 本 政 彦		(株)三菱総合研究所
11	事務局	中井田 榮	村職員	総務課長
12	事務局	今 野 智 和	村職員	総務課企画係

(委員:50音順、敬称略)

村民部会(農地保全・営農再開) 名簿

No.	区 分	氏 名	選出区分	所属等
1	代 表	守 友 裕 一	有識者	福島大学経済経営学類特任教授
2	委 員	川 井 智 洋	村 民	
3	委 員	菅 野 慶 一	村 民	
4	委 員	佐 藤 洋 子	村 民	
5	委 員	高 橋 盟 子	村 民	
6	委 員	手 渡 和 彦	村 民	
7	委 員	山 田 猛 史	村 民	
8	委 員	高 橋 栄 二	村職員	復興対策課建設管理係長
9	委 員	杉 岡 誠	村職員	復興対策課農政係長
10	事務局	酒 井 淳 子		(株)三菱総合研究所
11	事務局	中井田 榮	村職員	総務課長
12	事務局	齋 藤 博 史	村職員	総務課企画係

(委員:50音順、敬称略)

平成26年度第1回復興計画推進委員会

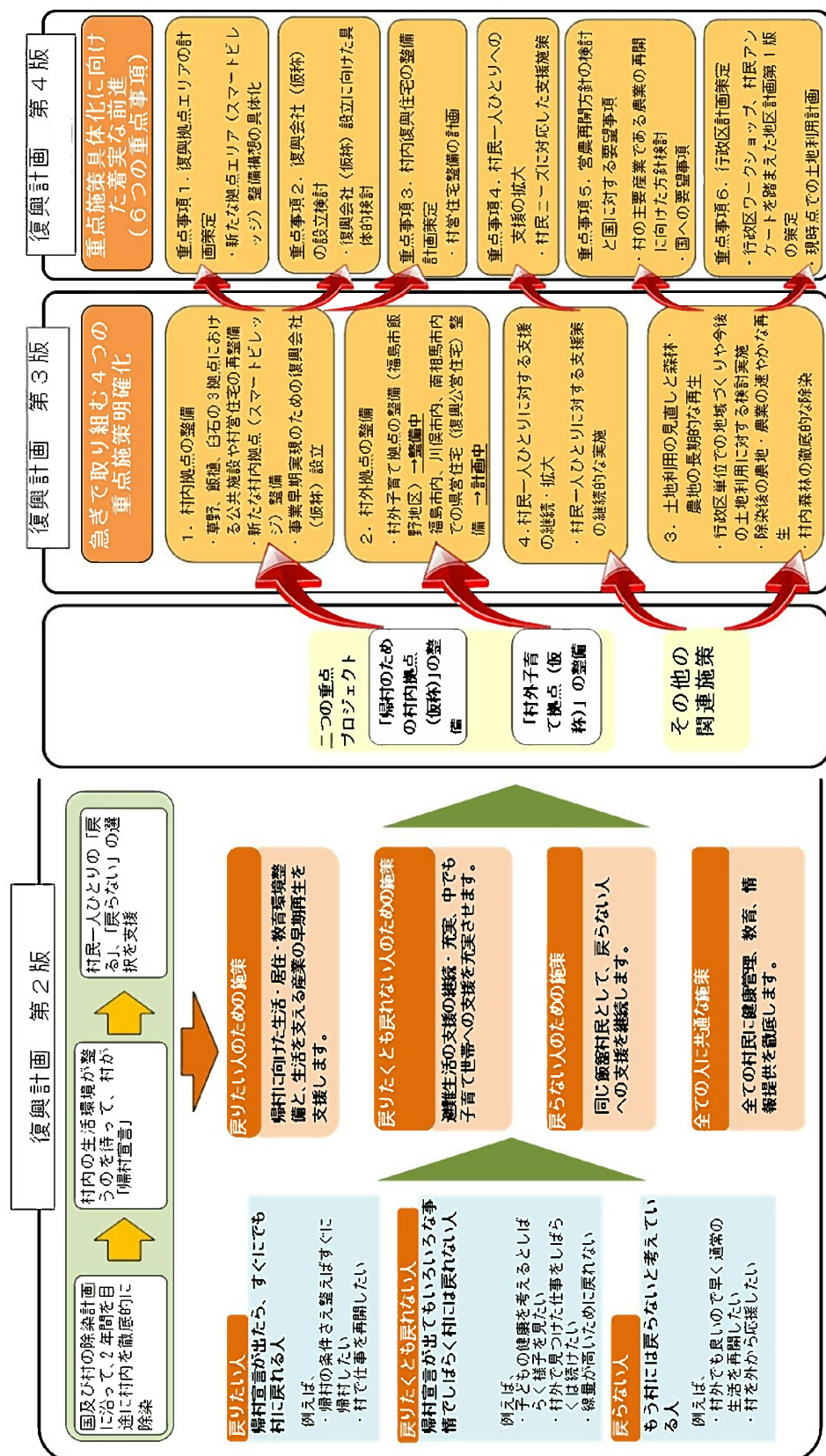
資料

1. これまでの「いいたてまでいな復興計画」について
2. いいたてまでいな復興計画（第5版）の諮問内容
3. いいたてまでいな復興計画（第5版）策定の進め方
4. 村民部会について

1. これまでの「いいたてまでいな復興計画」 について

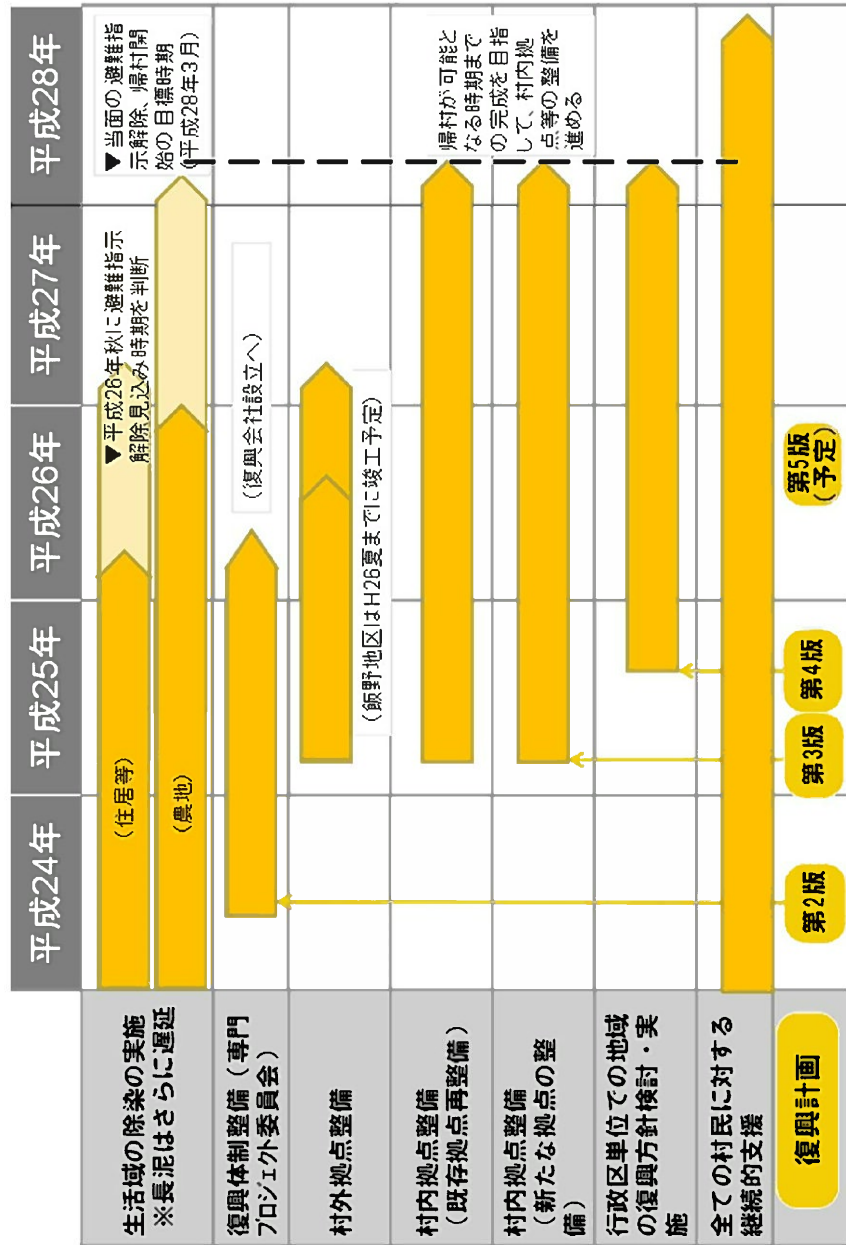
(1) 第4版までの検討経緯

復興計画第4版では、策定委員会による第3版の重点施策の具体的な推進方法の検討に加え、新たに地区住民による行政区を基盤とした地域の復興についての検討を進めた。



(2) 第4版時点での復興スケジュール

第4版では、平成28年3月を避難指示解除の当面の目標時期とし、生活区域の除染による線量低下を確認し、議会・住民と協議したうえで、平成26年秋時点で避難区域解除の見込み時期を示すとしている。



2. いったてまでいな復興計画(第5版)の 諮問内容

(1) 復興計画(第5版)の諮問内容

1. 帰村環境の整備について

- ・「教育」「暮らし」「医療・福祉・高齢者」「農地保全・営農再開」各分野について
- ・全体としての帰村環境の整備について

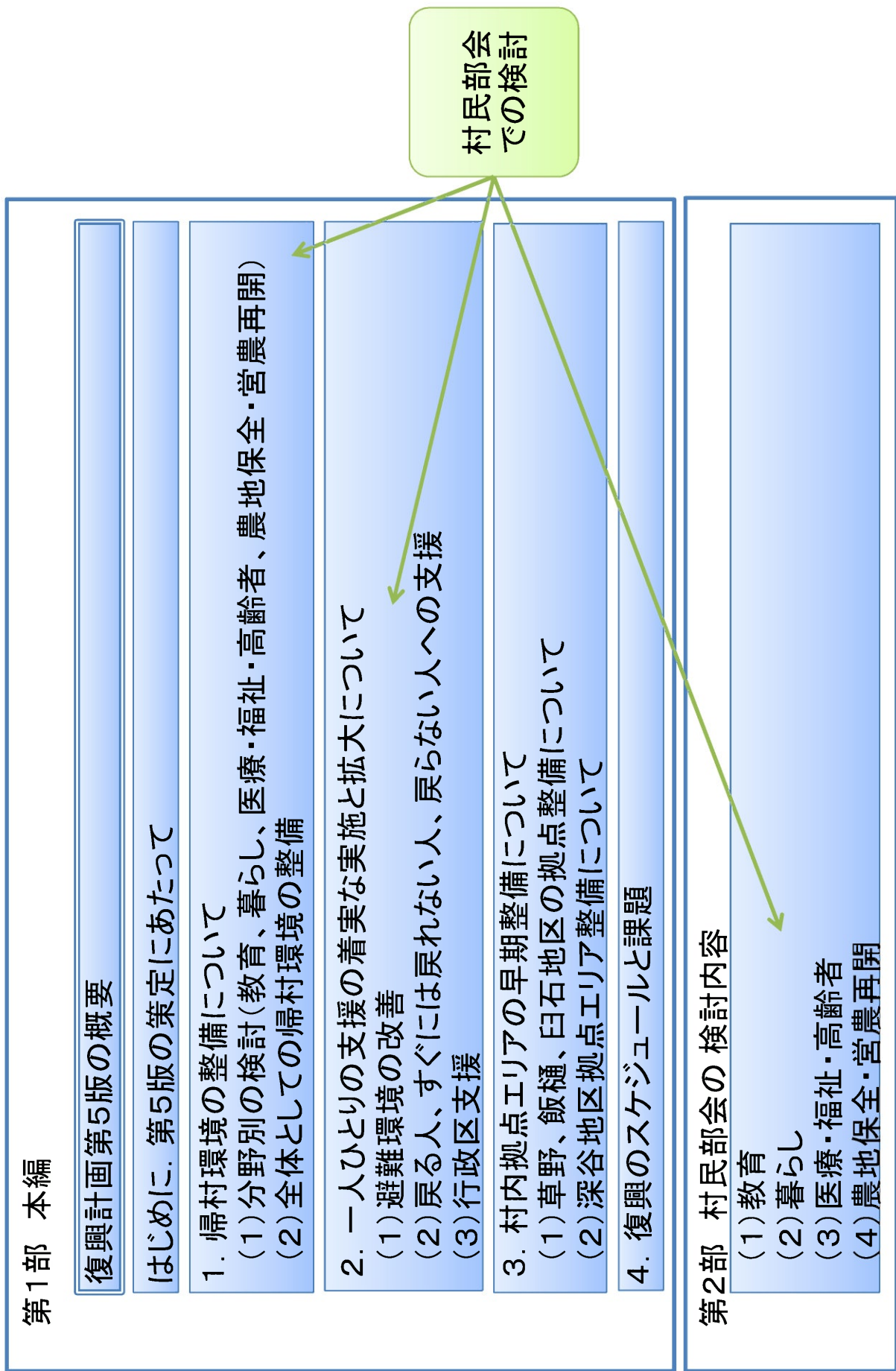
2. 一人ひとりの支援の着実な実施と拡大について

- ・避難環境の改善について
- ・戻る人、すぐには戻れない人、戻らない人への支援について
- ・行政区支援について

3. 村内拠点エリアの早期整備について

- ・草野、飯樋、臼石地区の拠点整備について
- ・深谷地区拠点エリア整備について

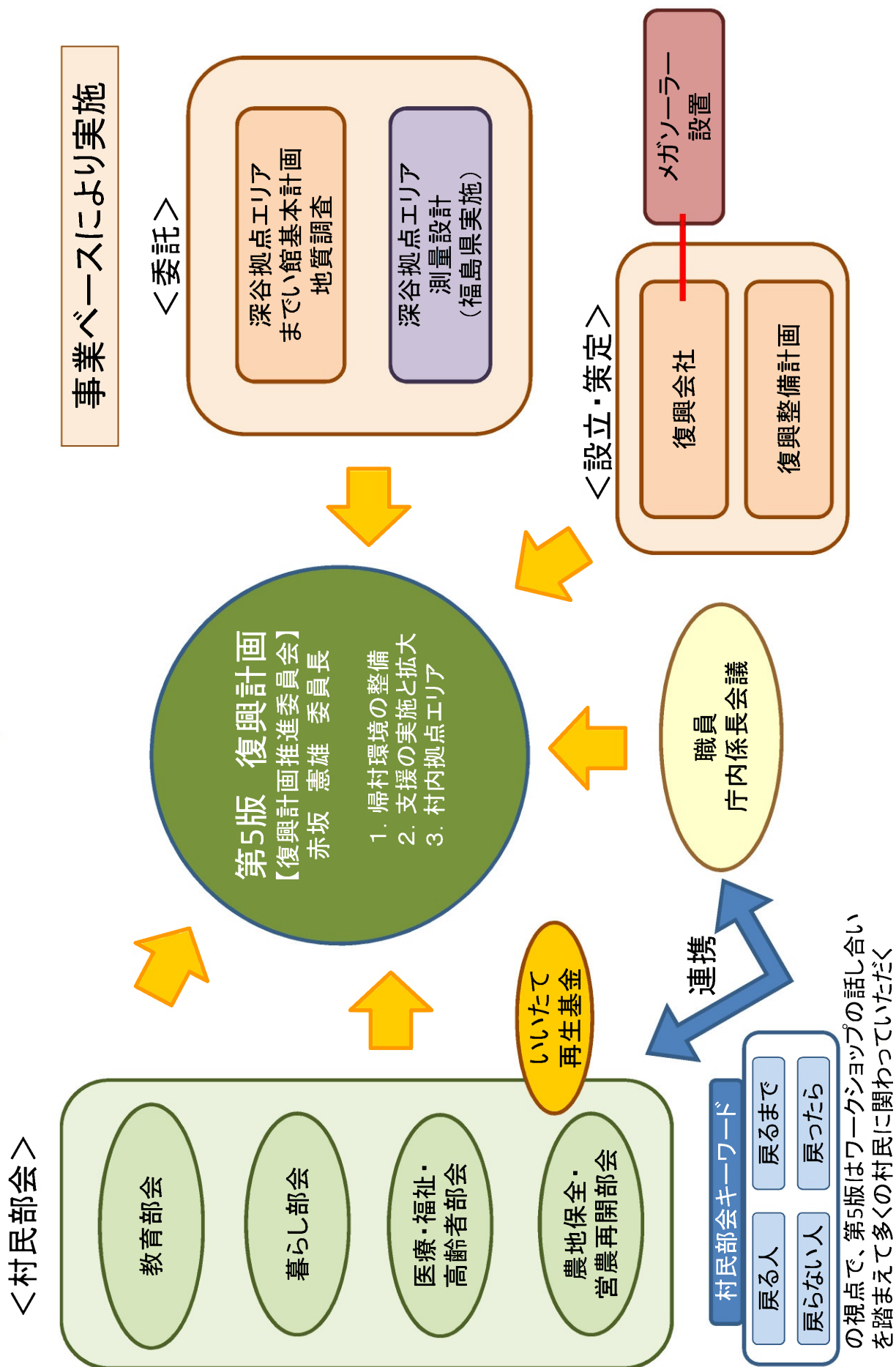
(2) 復興計画(第5版)の全体構成イメージ



※復興計画第4版に挙げた事業ベースで実施している内容は、具体的になり次第報告し、掲載予定。

3. いいたたてまでいな復興計画(第5版)の 策定の進め方

いいたて までいな復興計画(第5版) 策定フロー



4. 村民部会について

(1) 村民部会の役割と構成

村民部会の役割

○避難区域解除後の村民の暮らしについて、「教育」「医療・福祉・高齢者」「暮らし」「農地保全・営農再開」の4つのテーマ毎に、戻る人、戻らない人、すぐには戻れない人それぞれの立場から検討し、今後の生活再開や国や村からの支援策の具体化(※)につなげる。

(※)・戻る人のための帰村環境整備、生活再開支援

・戻らない人、すぐには戻れない人の生活支援

○第4版の行政区計画につづき、村民自身が当事者の立場から計画策定に参画する。

○村民部会での検討内容が、帰村までの日々の暮らしの改善、そして帰村後の暮らしの基礎となる。

村民部会の構成メンバー

○4部会それぞれ、村民、有識者、村役場担当者等をメンバーとする。

(2) 村民部会4部会の主な検討内容

教育

- 児童・生徒の帰村見通し、課題整理
- 学校施設の再開のあり方
- 当面の教育環境
- 必要な環境整備(学校施設等)

例) ・学校施設の改修(教室、運動施設、遊具等)
・スクールバスの運行 ・教育プログラムの検討
・保育所、こども園 ・社会教育
等

暮らし

- 住環境の見通し、課題整理
- 避難指示解除後の日常生活サービスの確保
- 地域コミュニティの維持(自治組織、共同作業等)
- 草野、飯樋、臼石地区の拠点整備

例) ・住宅の再建・確保 ・上下水道、電気・ガス・通信
・廃棄物処理 ・交通(道路環境、バス)
・商店、郵便、金融等 ・消防、防災・防犯・見回り
・公民館、集会所
等

医療・福祉・ 高齢者

- 高齢者等の帰村見通し、課題整理
- 避難指示解除後の医療・福祉サービスのあり方
- 当面の医療・福祉環境
- 必要な環境整備（公共施設等）

例）・健康診査・健康相談・モニタリング
 ・一次医療（診療所等） ・救急、高度医療体制
 ・訪問介護体制 ・特養、デイサービス 等

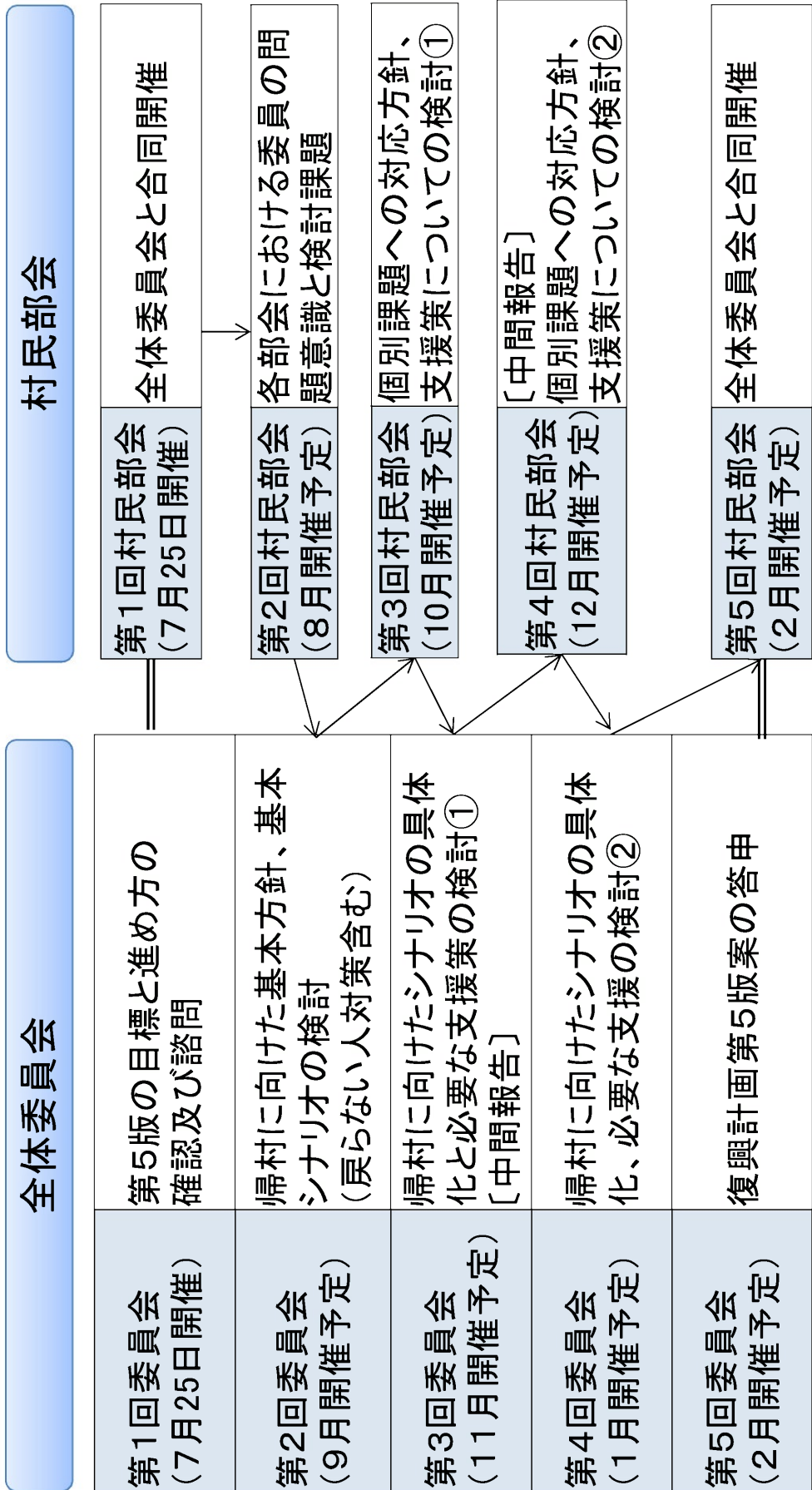
農地保全 営農再開

- 営農再開の見通し、課題整理
- 営農再開の方向（土地集約化、営農共同化等）
- 就業・雇用確保
- 必要な環境整備

例）・除染後農地の保全 ・農地、ため池、水路等の補修
 ・耕作放棄（離農）者等の農地集約と賃貸借
 ・共同経営型の集落営農組織の設立
 ・非食用作物による土地利用 ・雇用対策 等

(3)スケジュールと各回の議事

村民部会での検討を、全体委員会の議論に反映する。



※復興計画第5版案を27年3月の3月議会、27年4～5月に行政区懇談会にて報告の後、27年6月に6月議会で成案とする予定。

(4) 昨年度ワークショップ、アンケート等の意見

	現状の課題	帰村後の課題
教育	○子供に地域の歴史・文化を伝えたい	○村内での教育施設再開
暮らし	○震災前のような多世代同居ができない ○仮設住宅はプライバシーが無い ○避難生活の質が低い ○避難先の方が利便性が高い ○家屋の傷みをなんとかしたい ○サル、イノシシ等の鳥獣害対策 ○草刈り等の地域維持が必要 ○住民が集まる機会が無い ○借り上げ住宅の住民は孤立しがち ○避難先のご近所とのコミュニケーションがうまく取れない ○周囲から差別がある ○祭りや行事、イベントを継続したい	○家族が離ればなれになる ○家屋の修復、建替えが必要 ○修繕・建替え時の廃材の処理対策が必要 ○業者確保が心配 ○家の周辺で農業がしたい ○高齢者住宅など、集まって住む拠点が必要 ○自給自足の生活を再開したい ○引き水、井戸水が不安 ○道路整備を進めてほしい ○通信インフラの向上が不可欠 ○商店やガソリンスタンドの再開 ○公共施設再開 ○冠婚葬祭、地域行事の維持 ○消防団の維持 ○治安の悪化が心配 ○地域の交流の機会がほしい

	現状の課題	帰村後の課題
医療・福祉・高齢者	○運動不足から体力が低下している ○避難生活でストレスがたまる ○被災直後の被ばく影響が心配 ○草刈などの時の被ばくが心配 ○被ばくの健康影響を継続的にケア・支援してほしい	○高齢化社会が心配 ○高齢者福祉の充実 ○高齢者の生活支援、足の確保
農地保全・営農再開	○農地の除染が終了次第、農業を再開したい ○補償で勤労意欲がなくなる ○就労の場がない ○自営業の再開資金が無い ○自給自足ができなくなり経済的に不安	○営農再開の見込みが知りたい ○農業の本格的再開、再開できない人の農地利用 ○若い世代の参入が必要 ○風評被害が心配 ○花卉、バイオ作物、水耕栽培等への転換が必要 ○圃場整備と除染を同時にできないか ○仮置き場の確実な撤去が必要 ○減容化施設によるイメージダウンが心配 ○帰村後の雇用が不安 ○農業以外の雇用がほしい ○商店の再開資金が無い ○観光資源を活用できないか ○再生エネルギー、観光など新たな産業が誘致・育成できないか

(5)各部会のワークシートのイメージ

1. 現状の課題整理と帰村見込み ①現状の避難生活での問題点 【求められる対応策】 ②避難指示解除時の村民の帰村意向、帰村見込み	第2回 村民部会
2. 当該分野で今後目指すべきこと(村民が目指す再生の姿)	第3回 村民部会
3. 避難指示解除に向けた問題点、課題と対応策 ①避難指示解除に向けて想定される問題点 (どのようなことが心配か) ②問題点をどのように解決するか ③そのためにどのような支援が必要か	第3回 村民部会 第4、5回 村民部会
4. 避難指示解除に向けて具体的に必要な環境整備(公共施設等) 当面 長期的に ハード面 ソフト面	第4、5回 村民部会